

あいち多文化共生タウンミーティング 2020 IN ながくて 開催結果報告書

2020年10月10日(土)、愛知県は長久手市との共催により、「地域および学校における日本語教育」をテーマにタウンミーティングを行いました。休日にもかかわらず、長久手市の国際交流協会で活躍されているボランティアの方を中心に、行政職員、NPO、大学生など、41名の皆様に御参加いただきました。

開催結果は、以下のとおりです。

開催概要

テーマ 「地域および学校における日本語教育」

場 所 長久手市公民館(長久手市役所 西庁舎3階)

日 時 2020年10月10日(土曜日)午後2時から午後5時まで

当日の流れ

- 1 愛知県の取組紹介 (説明者 愛知県多文化共生推進室職員)
- 2 長久手市の多文化共生推進プラン策定について(説明者 長久手市たつせがある課職員)
- 3 基調講演

テーマ: 地域および学校における日本語教育について

登壇者: 小島祥美氏(東京外国語大学 多言語多文化共生センター 准教授)

- 4 ワークショップ

1 愛知県の取組紹介

この後の事例報告やワークショップの参考としていただくために、地域の日本語教育に関する愛知県の取組について紹介しました。

2 長久手市の多文化共生推進プランについて

本タウンミーティングのワークショップは、長久手市が2020年度に策定する「多文化共生推進プラン」の参考にするものであることから、ワークショップの参考となるよう、長久手市に暮らす外国人住民の現状や多文化共生推進プランの策定について説明しました。

3 基調講演

基調講演では、東京外国語大学多言語多文化共生センター准教授の小島先生より、外国人住民数の近年の動向、多文化共生・日本語教育に関する国・愛知県の施策について御紹介いただいた後、御自身が可児市で行われた外国人の子どもの不就学調査の御経験や、コロナ禍での地域の日本語教室活動などについてお話いただきました。



4 ワークショップ

ワークショップでは、地域や学校における日本語教育について、テーマごとに6つのグループに分かれ、現状の課題把握、解決策の検討を行いました。現状把握では、参加者同士、日頃の支援をしている上で感じている課題や経験などを共有しました。また、ワークショップの最後に、話し合った内容の発表を行いました。発表内容の概要は以下のとおりです。

テーマ1 「日本語教室での学習者の対応」

日本語教室でボランティア活動を行っている参加者から、「日本語教室では、なかなか学習者が長続きしない。入ってくれてもなかなか続かない。連絡もとれないことが多い。これが課題。ワークショップでは、最近は参加者もラインを使っているので、教室に来てすぐの段階でグループラインを作ってやりとりをすることが一つの解決策として挙げた。学習者が長続きするためには、学習者にとって面白いクラスづくりが大切。例えば、参加者が自分の国のことを発表する機会をつくるとか、興味を持ってもらえる内容にしたい。」との発表がありました。

テーマ2 「学校での外国にルーツのある子どもやその保護者への支援」

グループ① 長久手市の学校で外国人児童サポートをされている参加者から、「長久手市は、外国人児童が少ないため、先生が外国人の子どもひとりひとりについてサポートするのが難しい。学校の先生が口をそろえて言うには、外国人の子どもには、国語の授業が難しいとのこと。文章は読めても、正しい答えを表現できない。また、保護者は学校からの連絡が読めないのので、協会でサポートしている。」との意見が挙げられました。また、「子ども個人や家族に合わせた

取り出し授業や、地域の日本語教室での支援が必要。行政やボランティアや教育関係者がタッグを組んで一歩ずつ、できることからやっていくべき。」という意見もありました。

グループ② 「日本語指導が必要な児童生徒は、通う学校区・学年を変えることが可能とのこと、小島先生の基調講演で分かった。そこで、外国人が学校選びをできるようなシステムがあれば良いのではないかと、ということグループで話合った。すべての学校が同じサービスができるわけではないが、たとえばある学校はある言語でのサポートに特化していたり、ある学校は学習の遅れた子どもへのサポートができる、などの学校ごとの個性がわかれば、子どもにあった学校選びができる。そのため、そうした学校ごとの個性を説明したり、学校を訪問できる機会をつくるのが解決につながるのではないかと。また、子どもの不就学は、子どもだけではなく保護者にとっても負担なので、保護者のカウンセリングやサポートにも目を向けるべき。学校がストレスになるのは、母国の学校と違いがあるから。日本のシステムをきちんと知った上で学校を選んで行ってもらうことが問題解決につながると思う。」との意見がありました。

テーマ3 「地域と外国人とのつながりづくり」

グループ① 「私は国際交流協会で活動しているが、そんな私でも、協会に来る外国人を除いては、外国人の知人がいない。そもそも、外国人が地域のどこに住んでいるかまったく分からない、というのが問題。例えば、外国人に参加してほしい交流イベントについて、直接住居に郵便でお知らせできると、地域と外国人をつなげることができるのではないかと。また、現状、外国人が活躍できる場がないので、外国人自身が講師になって、日本人に外国語をボランティアで教えるような場があってもよいのではないかと」という意見がありました。

グループ② 日本の大学で学ぶ、外国人当事者でもある参加者から、「交流できる場所・困った時にサポートしてくれる場所がないし、外国人として、地域の活動情報などを得る手段がない。また、知り合いの外国人に運送会社で働いている人がいて、毎日長時間はたらいてストレスがたまっているが発散できる場所がなく、相談できる相手がいない。こうした状況で精神状態が不安定になれば犯罪にもつながるので対策が必要だ。外国人と地域をつなげるプロジェクトがあればいい。」という意見がありました。

テーマ4 「外国人の子どもを支援する人へのサポート」

参加者5人のうち4人が行政職員というこのグループからは「やはり金・人・物・情報や、活動場所・資機材がないことがまず課題。また、今後、コロナ禍により、対面ではなく通信機器によるコミュニケーションが必要になってくるといった課題認識もあがったほか、役所の文書手続は申請者からすると煩雑でハードルが高く、印鑑がひとつないだけで再度書類を提出しないといけな

いことがあるなど、役所からの補助金をとるにしても、情報をもろうにしてもハードルになる。」との声があったほか、「どこがサポートしてくれるのかという情報が明確化しておらず、サポートを受けたい方が探さないといけないので、どこの組織がどうした支援をしてくれるのかを明確化し一元化して欲しい」との意見もありました。

アンケート結果(一部抜粋)

※回答数 28 名

1 このタウンミーティングを何で知りましたか。(複数回答有り。)

チラシ	8
県のホームページ	3
facebook	0
知人からの紹介	5
メール	7
その他	5
無回答	0

【その他】日本語教室、国際交流協会(長久手市)からのお知らせ、広報ながくて、市のホームページ

2 基調講演の感想をお聞かせください(一つ選択)

とてもよかった	19
よかった	8
ふつう	1
よくなかった	0
全くよくなかった	0

2-1 感想の理由をお聞かせください(複数選択可)

活動を進める上での参考になった	15
これまで知らなかった話を聞くことができた	20
聞いた事がある話ばかりだった	0
つまらなかった	0
多文化共生社会づくりに興味がわいた	8
テーマについてもっと知りたいと思った	3
多文化共生社会づくりについて知識を深めたいと思った	13
その他	4
無回答	0

【その他】・ものすごく勉強になりました ・「動く」ことの大切さを学んだ。 ・先生の最後のお話は、とても良かったです。 ・本当の意味での共生とは？を考えさせられた

3 ワークショップはいかがでしたか。感想をお聞かせください(一つ選択)

とてもよかった	11
よかった	9
ふつう	7
よくなかった	0
全くよくなかった	0
無回答	1

3-1 感想の理由をお聞かせください。(複数選択可)

活動を進める上での参考になった	11
これまで知らなかった話を聞くことができた	12
聞いた事がある話ばかりだった	0
つまらなかった	0
多文化共生社会づくりに興味がわいた	7
テーマについてもっと知りたいと思った	6
多文化共生社会づくりについて知識を深めたいと思った	13
その他	5
無回答	0

【その他】・立場の違う人と話げできたのでとても良かった。・グループ内の意見交換がほとんどできなかった・話し合の時間が短すぎ・問題点について話げできた・課題点の追求にもっと時間をとってほしい・話し合の時間が短く、皆さんとあまりお話できなかったのが残念でした。司会進行として、お一人入っていただけるともう少しスムーズなワークショップになったかなと思います。

4 【本日のテーマに関する現場で活動されている方にお聞きします。】今後、支援者同士が情報交換・意見交換する場は必要ですか。

必要	23
不要	1
無回答	4

【理由】

- ・活動グループにフィードバックします。
- ・結局、人のことは人がなんとかしなければいけない、顔が見えなければ支えることはできない
- ・多文化共生社会づくりの活動を進める上に知らなかった内容を持ち合い知識を深めるため
- ・お互いを知る上でコミュニケーションは必要
- ・いろいろなアイデアが出るから
- ・各人の意見は参考になる。
- ・いつでもそこに行けば外国人と交流出来る場が必要。外国人の立場でも日本人との交流が必要。外国人・日本人がイベントを盛り上げれば理想

- ・外国人の住民の皆様をより支援していくことは今後も重要なテーマだと考えるからです。
- ・知らない情報、色々な情報を取り入れたい。
- ・課題がどのように解決されていくのか、共同して検討していくことが重要であるため
- ・Up Date な情報交換の必要性あり？
- ・単体では支援は難しいし、人と人とのつながり、ネットで支援をすべきと思うので
- ・実際にどういった方法で支援しているのか、参考例を沢山知りたい。
- ・グループワーク(意見交換)の時間が少なかった
- ・木を見て森を見ず。にならない様に
- ・教室活動中では時間がとれない
- ・それぞれの視点、考え方で活動があるかと思しますので、意見交換をすることで良い面の向上や、問題の解決につながるのでは・・・と思います。
- ・今回、様々な立場の人が様々な情報や考えを持っていることを知ったので、やはり情報を共有する場は必要だと思います。

5 今後、タウンミーティングでテーマとしたいこと、やりたいことなどがあれば教えてください。

- ・現場で多文化共生の最前線で活躍している人達の話をお聞きしたいです
- ・日本語教室や、外国人支援の充実している市町村の「具体的な」取組、日本語教室であれば、実際に使っている教材の紹介が共有
- ・外国人在住者とのタウンミーティング、相談ごと、希望することなど話す場、「解決にむけての話合う場」
- ・日本語を教えるスキルアップの機会がほしい
- ・子育て中の外国人ママ、日本人ママの交流ができるタウンミーティングを行ってほしい。
- ・タウンミーティングを行う場合、もう少し当事者である外国人の方を入れて頂けると生の声を聞けるかと思えます。
- ・新しい情報が得られる、情報交換することができる
- ・外国の方の参加があるミーティングで御意見をうかがえるようなイベント・勉強会
- ・市役所内の各部内からの参加を促し多文化共生に対する考えの拡大

おわりに

今回のタウンミーティングを通して参加者の皆様から頂きました御意見は、今後関連する施策を進める上で参考にさせていただきます。参加して下さった皆様、ありがとうございました。

あいち多文化共生タウンミーティングは、2018年3月に策定した「あいち多文化共生推進プラン2022」の重点施策の一つで、毎年3回開催することとしています。日頃、多文化共生に関心を持って活動されている方も、そうでない方も、どなたでも参加していただくことができます。今後も開催して参りますので、ぜひ御参加ください。



愛知県多文化共生シンボルマーク